

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100976		
法人名	医療法人ネバーランド石井内科クリニック		
事業所名	グループホーム マナの木		
所在地	岡山県岡山市東区神崎町102-1		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100976-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成25年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は自然と緑に囲まれ、ゆっくりとした時間の流れの中でお過ごし頂けるとても良い環境に位置しています。経営母体である石井内科クリニックは同一敷地内に隣接しており、日々の健康管理や病状管理は勿論の事、急変時の対応も体制がしっかりと整っており、安心してお過ごし頂ける施設です。また、運営理念として「自分の親・自分自身が、マナの木で介護を受けたいかどうかを行動の基本とします」とあるように、職員の一人一人が理念の自覚を持ちサービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山東部の市街地に位置し、四季が感じられる自然豊かで、静かな環境にある。石井内科クリニックを母体とし、グループホーム等、幾つかの施設が併設されている。「自分の親、自分自身がマナの木で介護を受けたいかどうか」を基本理念、行動方針とし、介護目標を掲げている。住み慣れた地域で医療連携が十分に図られ、看取りたいという院長の思いを全員がくみ取り、全職員が協力して最後までお世話をしている。研修や行事等年間計画を立て、毎月勉強会を行い、自己研鑽に努めている。、利用者が元気で楽しく、美味しい物を食べて、想い出作りの支援をしている。家族は親のいきいきした日々の表情を見て、喜び感謝している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分の親・自分自身がマナの木で介護を受けたいかどうかを行動の基本とします。」とある運営理念に基づき、何かケアの中で問題が上がった時には、自分自身や自分の親ならどうするかを考えながら問題解決をしています。	理念、介護目標を掲げ「自分の親、自分自身がマナの木で介護を受けたい」を行動方針とし、ミーティングなどで振り返りや問題解決の話し合いを行い、共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と一緒に地域を散歩し、ご近所の方々との会話を楽しんで頂けるよう支援しています。また「マナの木新聞」を年4回発刊し、日常生活の様子を地域の方々にとって頂き交流に繋がるよう努めています。	近所を散歩し、途中の保育園に寄ってお喋りをしたり、園児が遊びに来て、日常的に交流している。秋祭りにキッズチアガール、また旭川荘の学生等が、ボランティアに来てくれる。マナの木新聞を発行し町内で回覧してもらってる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内研修で定期的に認知症の研修を行い、運営推進会議を通じて内容を発表し、地域の方々にご理解をいただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、日々の生活の写真や内容を掲載したものを報告しています。その時には、必ず家族様からの御意見を頂くようにし、より良いサービスが提供できるよう努めています。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、町内会長、民生委員、包括センター、家族、地域住民等が参加している。状況、活動の報告を行い、意見や助言を頂き、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議には毎回参加して頂いており、定期的にサービスの実施内容を報告しています。包括の職員の方からは地域の情報を頂きながら、相談等にももって頂いています。	包括センターの方には推進会議に参加してもらっている。立ち上げ時より定期的に現状を報告したり、地域の情報を教えてもらったり、相談し、意見や助言を頂き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠については夜間を除き開放していません。玄関には事故予防の為、徘徊探知機を設置して安全面には配慮し、利用者様には自由に外へ出て気分転換を図って頂けるよう支援しています。	法人全体の方針として「身体拘束排除宣言」を掲げ、マニュアルを作成し、ミーティング等で勉強会を行い、理解を深めている。現在拘束が必要な人はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で、何が虐待に値するのか・虐待では無くても虐待に繋がる可能性のあるもの(不適切ケア)とは何かを考えながら、各自意見を出し合い勉強しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に成年後見人制度の概要について発表してもらい施設内研修をしました。日常生活自立支援事業についても説明をしながら、職員全員で質疑応答を行い知識を深めました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は内容を読み上げ、項目ごとに利用者や家族の理解の確認と質問の有無を聞きながら、同意を頂き進行するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置し、いつでも要望を承れる様にしています。また、面会に来られた時は積極的に話しかけ、言葉を頂きやすい雰囲気づくりと意見を頂いた時には、苦情相談記録を活用し改善策を話し合い実践に繋げています。	意見箱を設置し、運営推進会議や面会時、行事等に意見や要望を聞き、運営に反映できる様にしている。マナの木新聞を発行して配布し、また面会時に、コメントが入った個別ファイルにて現状をお知らせし、楽しい写真を見て頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度代表者同席の元、管理者とリーダーを中心に会議を行い意見交換の場を持っています。その他には、申し送り簿を活用し統一したケアが行えるように努めています。	代表者、管理者、リーダーと会議を行い、意見交換の場となり、提案や要望が言える機会となっている。年間計画を立て毎月外部から講師を招き研修を行っている。管理者とは介護技術から個人的な相談迄、何でも話し合い関係にある。	色んな経験を積んで、人に対して特別な思いを持っている代表者や管理者の経験や成果を学び、質の向上を目指し、自分も入りたいと思う施設として、今後も他のお手本となる様更に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況は、管理者やリーダーを通じて代表者に随時報告し、功績に応じて給与等に反映しています。また、代表者との面接の機会を持ち、職員が日頃感じている事や困っていることを聞きながらメンタル面でのサポートもしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度外部の講師をお招きし、石井内科グループ全体で介護に必要な勉強を基礎から実技を交え研修をしています。また、施設内においても課題に応じて研修発表を行い知識の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に積極的に参加することで、情報交換やネットワークづくりを行うように指導しています。研修後は、内容をまとめミーティングで発表してもらい、サービスの向上に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わる事で、何を不安に感じられているのかを把握する為に、まずは信頼関係を構築する事に努めています。言葉として出ない不安な想いや表情に注意しながら、安心してお過ごし頂ける様支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居にあたり、何を施設に求められているのか…どのような事に注意して欲しいのか…不安に感じられている事はどんな事なのかをお聞きし、その問題点を解決しながら信頼関係を図るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の想いや意向をお聞きした上でアセスメントを行い、重要性の高い問題点から順に解決できるよう配慮しています。また、必要に応じ医療との連携が、スムーズに行えるよう調整をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方の意向をお聞きしながら、洗濯干しや衣類たたみ、食器拭きなどの日常的な家事を職員と一緒にやる事で、役割意識を持っていただくと共に、生きがいを感じて頂ける生活を提供できるよう支援しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には日々のご様子や状況を必ずお伝えするようにしています。また、ご本人が職員には話せない事で不安に思われている事はないかどうか、家族にお聞きするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の想いを大切に、会いたいと言われた方がいた場合はご家族にお伝えし来て頂くようにしています。また、住み慣れた地域にドライブに行ったり、お墓参りに家族と一緒に行く支援も行いました。	家族の面会が多く、一緒にお墓参りや買い物等の外出支援をしている。昔から信仰している宗教の友達が訪れてくれている。ドライブに行ったり、近所に散歩に出掛けた時は、保育園に寄って楽しい時間を過ごす事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に傾聴し、関係作りが円滑に行っているか把握するようにしています。また、リビングで表情よく過ごされているか確認しながら支援するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何かあればいつでもご相談してくださいということ、機会があった時にお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からの信頼関係を大切にしながら、ご利用者がご自身の想いを話しやすい対応を心掛けています。また、自己決定ができるような言葉かけに注意し、自己表現が困難な方においては、表情や行動を把握しながら検討しています。	日頃から何でも話しやすい雰囲気を作り、信頼関係を築き、思いを汲み取り、本人本位を心掛けている。思いを表出できない人は、家族に聞いたり、日々の観察を重視し、言葉かけや対応に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前のサービス利用については、担当ケアマネに利用状況を聴き、情報収集をしっかりと行うようにしています。また、どのような暮らしをされて来たか、どのような事が好きだったのかを把握しながらサービスに繋げるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ会議で、各担当者から状況報告をするようにしています。そこで持ち寄った情報の中で問題点を抽出しながら意見交換を行い、ケアの向上に繋げるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様の望まれている事をお伺いした上で、できる事・できない事についての把握を行い、モニタリングの中で、何が必要なのか・どうしたら実現できるのかを職員間でも話し合いながら作成するようにしています。	利用者、家族の意見や意向を聞き、確認し個人記録を参考に、計画は3ヶ月をめどに見直している。スタッフ会議や、ミーティング等で話し合い、何が 필요한のか、実現可能な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録はできるだけ介護計画の具体的なサービスに沿って記入し、計画の見直しに役立てています。また、申し送りやスタッフ連絡ノートを活用し、情報共有が的確に行われるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変化し、問題点が出てきたり相談があった場合には、本人様や家族様の意向をお伺いしながら適切な情報の提供を行なうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、生まれ育った馴染みの場所に出かけるようにしています。また、ご本人の意向をお聞きし、できるだけ意思決定を促した上で望まれた場所に出かけるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の確認は入居時に必ず行い、かかりつけ医がある場合には医療との連携を取り、情報の共有に努めながら利用者様に安心して医療を受けて頂ける様に配慮しています。	かかりつけ医の希望があれば、医療との連携を図っている。月2回母体から院長の往診があり、緊急時対応も万全である。看護師が毎日母体から派遣され、医療に対し安心感が得られている。他科受診の支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師によるバイタル測定時に、その日の利用者の状態を必ず報告し、必要に応じて受診や処置の対応を行うようにしています。また、異常を感じた時には隣接のクリニックと連携を取り、早期の対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には適切な情報提供を行い、医療機関と事業所が協働できるように努めています。ソーシャルワーカーや医療関係者との連携も取りながら情報を共有し、早期の退院の受け入れが可能になるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内の重度化に伴い、看取マニュアルを作成し今後なりうる状況を踏まえ、心身のケアをどのようにサポートするのが望ましいのか、基礎知識を交え施設内研修をしました。	嚥下が出来なくなった時点で重度化とみなし、看取りマニュアルを参考に、今後のサポートに関し内部研修を行い、方針を共有している。家族には契約時、変化時、意向を聞きながら対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	それぞれの利用者に起こり得る急変時の対処方法については、主治医から情報をいただきその都度、職員に伝達するようにしています。また看護師から応急手当方法を指導していただくようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間を想定した避難訓練を年二回実施し、避難経路や掛け布団を利用した搬出方法の確認を行いました。また、近隣地域協力者を交えた災害時等緊急連絡網を作成し体制を整えました。	年2回、昼・夜間を想定し、合同又は事業所のみでの訓練を、状況に応じて行っている。防災マニュアルや地域との災害避難連絡網を作成し、体制を整えている。法人の施設を地域の避難場所として提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生歴を把握して、その方が大切にしてきたものは何なのかを考え対応するように努めています。また、尊厳の気持ちを持ちながら言葉をかけ、寄り添いながら対応するようにしています。	「自分の親ならどうなのか」という理念に基づき、一人ひとりを尊重し、尊厳をもちながら対応している。何を大切に過ごしてきたかを考え、場面によって臨機応変の言葉かけをし、寄り添う介護を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択ができる言葉かけを心がけています。思いが言葉に出にくい方には、表情や行動に注意しながら、その方が何を訴えたいのかを考えながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に沿ってサービスは提供していますが、その時に要望を聞いてから実施するようにしています。また、外出支援時はどこに行ってどのように過ごしたいかをお聞きするようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や更衣時は、ご自身に衣類を選んで頂くようにしています。また選択が難しい利用者様は、職員が季節にあったその方らしい衣類の好みをお聞きしながら職員が決めるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月単位でメニューは決めてありますが、日常的に何が食べたいかお聞きし、メニューを変更したり特別メニューや行事食に反映しています。また、野菜の下準備や片付けなど意向をお伺いしながら一緒にしています。	日々何を食べたいかを聞きながら、献立を考える。菜園で収穫した野菜等を一緒に調理し、特別メニューや行事食、バーベキューをしたり、手打ちうどんを作ったり、もみガラで焼き芋を焼いたり、戸外での食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が困難になってきたり、嚥下や咀嚼状態に問題を感じた場合は、食事形態を変更したりトロミ剤を使用しながら介助し、その日に必要な食事・水分を計測記述し管理するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に必要な支援方法で歯磨きや義歯洗浄をしています。また、義歯洗浄剤を定期的に使用し清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起立保持が二人介助でも、ご本人にとって負担になる場合を除き、可能な限りトイレにお連れし排泄を促しています。そして、排尿・排便は時間ごとに記録をし、その方に応じた声掛けや定時誘導をしています。	排泄記録を基に、定時・随時に誘導し、個々に応じた対応をしている。起立保持が出来ず、負担がない限り、二人介助を行い、トイレでの排泄や自立支援を行っている。トイレは車椅子でも入り易い三枚扉になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立には、野菜や繊維のものを多く取り入れるようにしています。水分をしっかりと摂って頂けるように好みに合わせた飲み物も提供しています。また、曲に合わせた体操を毎日15分くらい行い、身体を動かす時間を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定入浴日は決めてありますが、当日の朝に意向をお聞きするようにしています。シャワーキャリーやリクライニング式シャワーキャリーを必要に応じて使用し、安心して入浴を楽しんで頂けるよう支援しています。	週2回入浴日と決めているが、状況に応じ希望を聞きながら対応している。座位困難な方には、リクライニングキャリーを用い、二人介助で安全に配慮し、安心して入浴してもらっている。季節のゆず湯等の楽しみも支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、その方のペースに合わせて休息して頂いています。昼食後は休息の時間を作り、無理なく一日を過ごして頂けるようにしています。室温にも気を付けて、エアコンの温度設定をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋綴りで、薬の目的・副作用・用法・用量を確認し、不明な点は主治医や看護師・薬剤師に聞きながら対応しています。薬が変更になった場合は、症状や状態を医療に情報提供しながら対応するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の身体機能にあった役割作りを考えて、洗濯たたみ・洗濯干し・食器拭き・新聞折り・野菜や花の水やりをして一緒にしています。また、行楽地へのドライブやお散歩も意向をお聞きしながら実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣・お花見・紅葉狩りなどの行事は、どこに行きたいかお聞きしてから場所を決めています。日々の支援は、本人様から意向をお聞きし、家族様をお願いしたり、一緒にその場所に出かけて季節を感じて頂いたり、買い物を楽しんだりして頂いています。	季節や催事に合わせ、体調を見ながら、花見、紅葉狩り、初詣と全員が行きたい場所に出掛けられるよう希望を聞き、家族にもお願いし、一緒に出掛けている。また買い物に行ったり、季節が感じられる場所への外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様・家族様同意の上、少額に限り所持して頂くようにしています。買い物の希望があった時にはその場所に一緒に行き、お支払いの時は金銭・レシートの出し入れを見守り支援するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望された時は、その場所までご案内し、掛けて頂くようにしています。お手紙が来たときはお渡しすると共に、手紙を投函してほしいとの要望があれば随時お受けしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は彩光も良く入り、色調も優しい色合いで落ち着ける配色にしています。感染予防にも配慮して、除菌空気清浄器を設置し、ご利用者は勿論、職員も健康的に過ごしています。壁面には、季節行事の絵や写真を掲示し季節感を感じていただいています。	ホールは明るく、手作りの作品や押し花絵、外出時の写真が壁に飾られている。ウッドデッキの向こうには、コスモスやスマレが咲き乱れ、季節の野菜が植えられ、季節を感じることが出来る。室内は、温度や湿度に配慮し、居心地良く過ごせる様工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされている時の、会話や表情に気をつけて席は配慮するようにしています。また、リビングから出られる庭には縁台を設置し、気分転換をして頂ける場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際には、できるだけ購入したのではなく使い慣れた物を持参して頂くようにしています。また、家具の位置はご意向をお聞きしながら、設置するようにしています。	各部屋には洗面所があり、自力で洗面や歯磨きをしている。たんす、テレビ、ソファ、家族の写真等使い慣れた品を持ち込み、家具を自由に配置し、入口にはのれんを掛け、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内をご自身で杖やシルバーカー・歩行器を使用し、見守り移動される場合も、スムーズに走行できるように机や椅子の位置に配慮しています。		